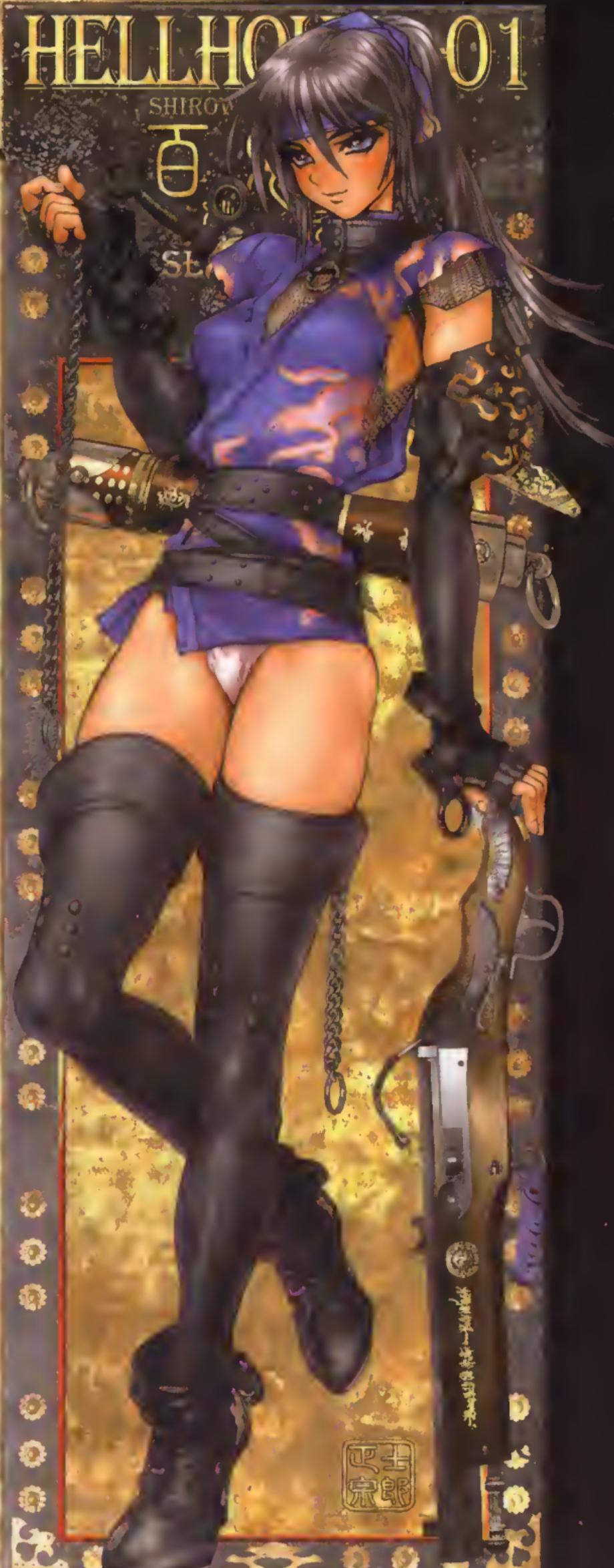


HELLHOLE 01

SHIROW

百
S



セシンシャ

PIECES 4 ピース4
HELLHOUND 01

PIECES 4

HELLHOUND 01

士郎正宗

SEISHINSHA

HELLHOUND 01





ある時、紫苑は地獄で目覚めた。夢でない事
は窓けつく肌の感じでわかる。寝ている間に
油断があって誰かに殺されたのだろうか、或
いは夕べ食べた川魚にでもあたったのか？
牛の頭をした獄卒（生前に罪を犯した人間の
魂に相応の責め苦を与える苦役の一種。惡意

からではなく、それが神の意による仕事）が
『御前はゆえあって黄泉判官殿に召喚された
のだ』と、紫苑に告げる。ここでの言葉は耳
に聞こえるのではなく頭の中に湧くものらし
い。何故か理由はわからないのだが獄卒衆が
大変懶かしい者達のように思えてならない。





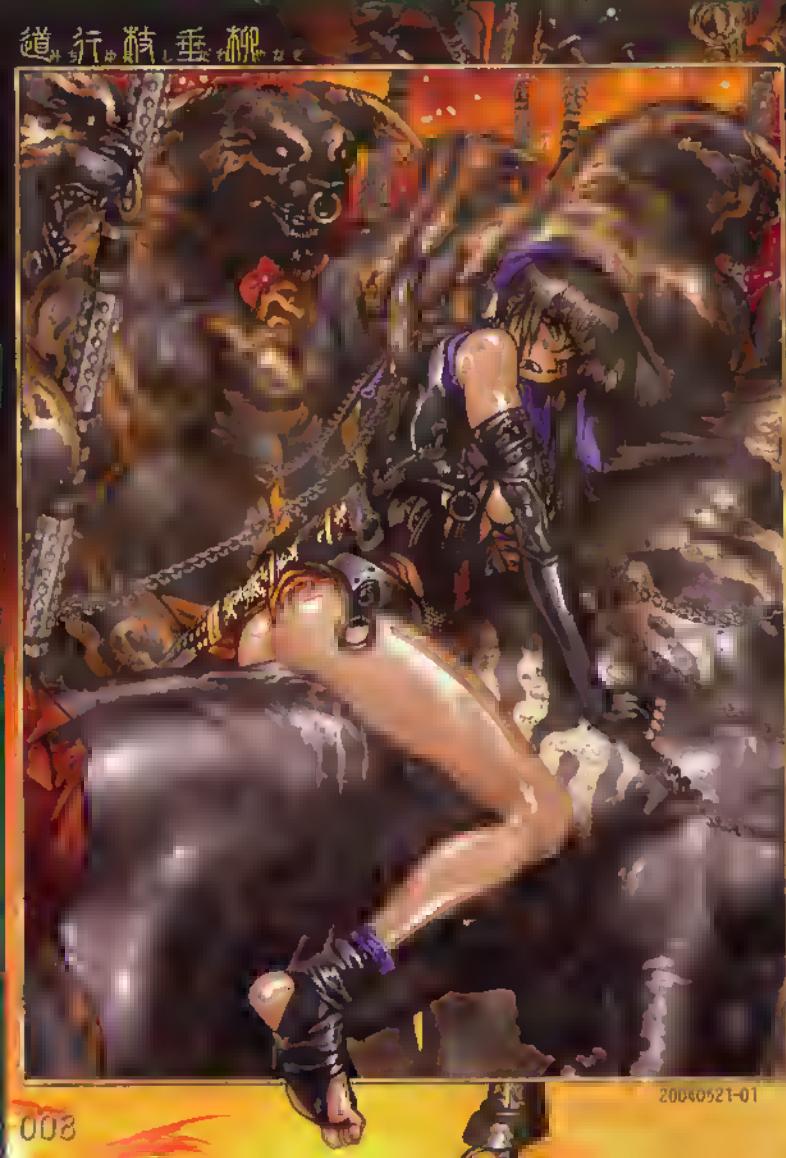
現世でひたすらに武を継承し戦い続けてきた紫苑は、人々がまだ闇や見知らぬものをひどく忌み恐れた時代の少数異民族という事もあり、人前で肌をさらす事が全く無かった。それが幾つかの手慣れた装備以外何も身にまとめておらず、彼女にとっては裸は自然のひどく恥ずかしい姿で牛頭の歎卒衆（人外のものではあるがその姿から雄であることは明白）に取り囲まれているのだ。さすがに心中想つかではないのだが、短筒や火薬袋が熱で引火しないか、火薬が間に合わないが周囲の火で何とかできないか等、反射的に戦いの流れを組む紫苑に歎卒衆の頭目らしき風貌の歎卒が告げる。

「我ら千年万年来の姐弟、仮の道で御同業故心安うに。得物や鎖は御主の望み故に在り。製するには裸で現世に生まれて、現世に全てを残し裸で死ぬものだが、常世でも何かの理由で許されたものであれば所持したり身にまとったりできるらしい。或いはこれは生前の行為に由来するものか…紫苑にそうしたことを判断する術は無い。確かに一糸まとわぬ裸よりは心持ち良いが、どうやら常世では今まで透けて見られるらしい。逆に裸かから見ると相手が牛の頭で、表情すら読みめないのが…恐ろしい姿ではあるが、歎意や惡意は感じられない。それどころか意外と礼儀正しいようにも思え。他にどうすることもできないので、紫苑は歎卒衆に連れられて貴重判（ヨウバン）のものとへ出向く事に同意する。」



この歎美衆に、馬代わりの獸の背に跨らされて糞泉判官殿の下に引き立てられる繁苑。現世では馬や牛は「人が乗るもの」ではなく荷物を運んだり、土木農耕で力作業を手伝つたりする動物だ。騎馬戦などが登場するの！ 後の時代の事。ごく稀に「自分達は高貴だ」とか言っている連中が移動時に乗る姿を見る事があるが、その顔も女性は足を捕えて背の片側に座るのが常識であり跨ることなどありえ無い。繁苑は幼少の頃に農作業中の牛に跨った事があるが、このように脚を大きく開いての乗馬は初体験である。おまけに剥き出しの内股全てが裸馬の青皮に密着し、恥ずかしい事この上ない。





20060521-01

008



20100617

0619

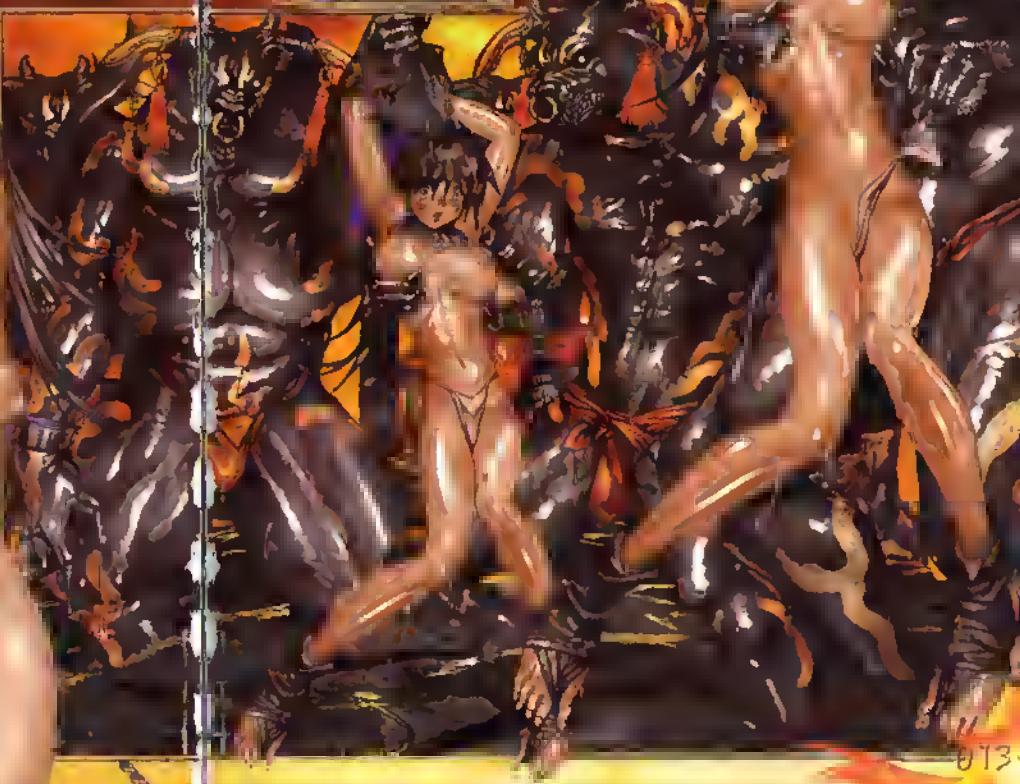
09

私は人間界で
この上無く勇敢に
戦った！
ヴァルハラに
迎えられぬは
何故か！？



紫苑の頭に「御前は未だ死んでおらぬ故である」と声が響く。黄泉判官殿の言うには、ここ地獄には「生前、色欲に関わる罪を犯した魂が行く責め場」があり、千年に一度その剣の山から「夜刀（よと）の神」が発生し人間界に抜け出て、人や獣や様々な獣物や狐狸妖怪の頭に依り憑いて禍を成すのだそうだ。紫苑は歎卒衆の神将となり人間界（といっても人間達にはよく見えない亜世界だが）に赴いて夜刀の神憑きの様々なものと交わり、喜悦によってこれを地獄に戻すよう命ぜられる。

もっぱら武に生きて、ろくに人肌すら知らぬ紫苑は「得体の知れぬ者共と肌を合わせるなどまっぴら御免」と鼻息荒く憤慨していたが暫く説法されるにつけ心底に秘めたる肉体の欲望などもあってか夜刀の神遣便の任を承諾する。実は紫苑は過去にも未来にも夜刀の神遣便を専門に行う生来の魔姫なのだが、夜刀の神憑っている千年的間、神氣を悟られぬため人間界に常駐し、三達の川か窮地を流すので当人も魂の奥深く以外では、そうである事を忘れているだけなのだ。





紫苑の駄卒業は鬼神とどれほど交わっても交わる事。慣れる事、失う事、産む事などが無い。神将であるから、八百万（やおよろず）

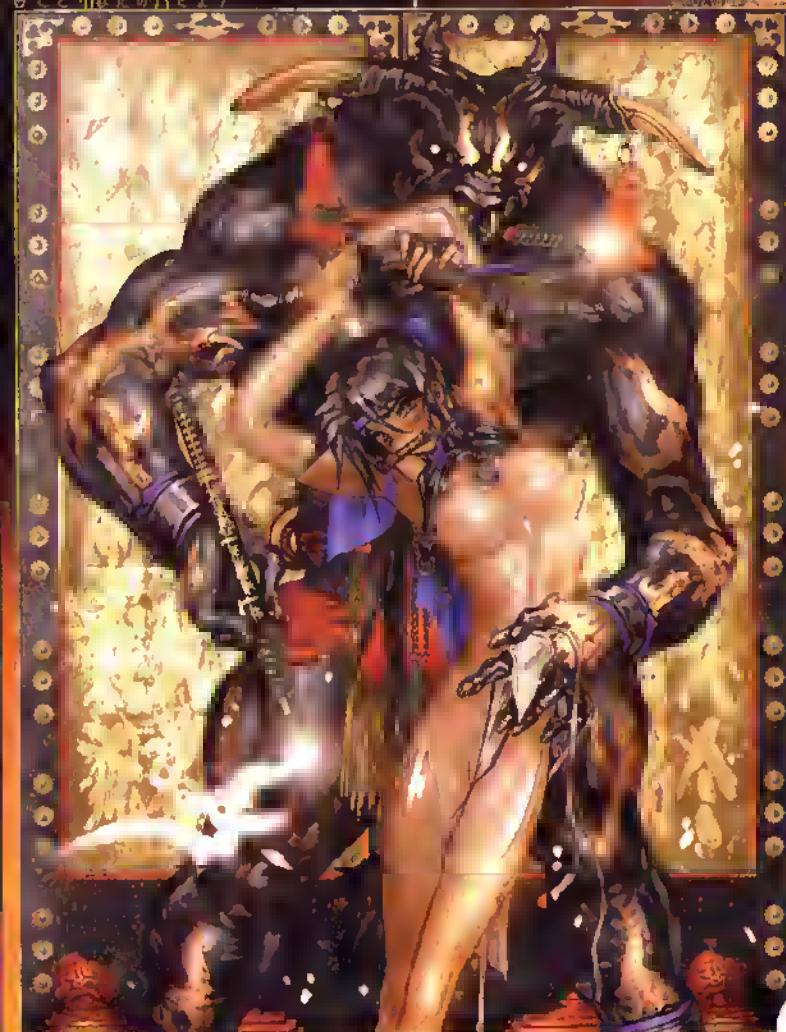
神の力を借りて荒ぶる事もできるが、主業三事傍をもって夜刀の神を真泉の地獄へと導くことがある。言うなれば人間以外の

「神憑き」を対象にする事魔の一種だ。死は全身くまなく鬼神八仙蛭を呪込む「一行」を経て、封印されている「永遠」は、

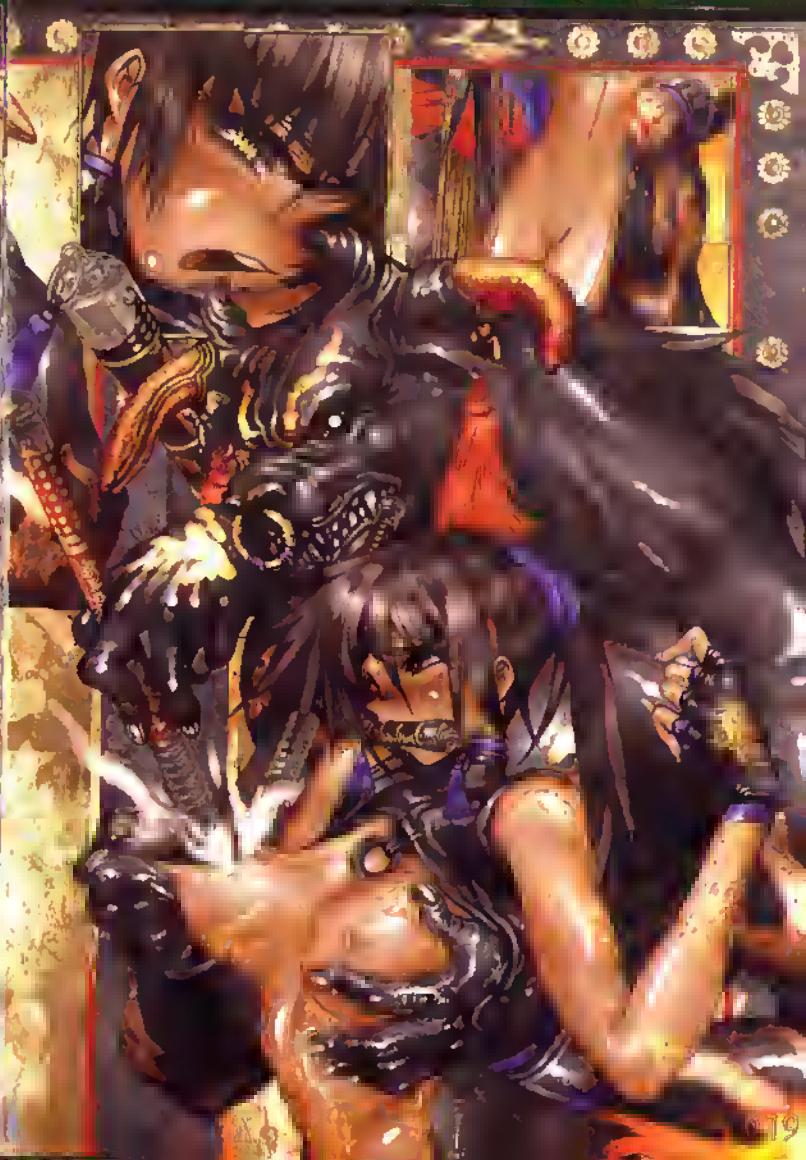
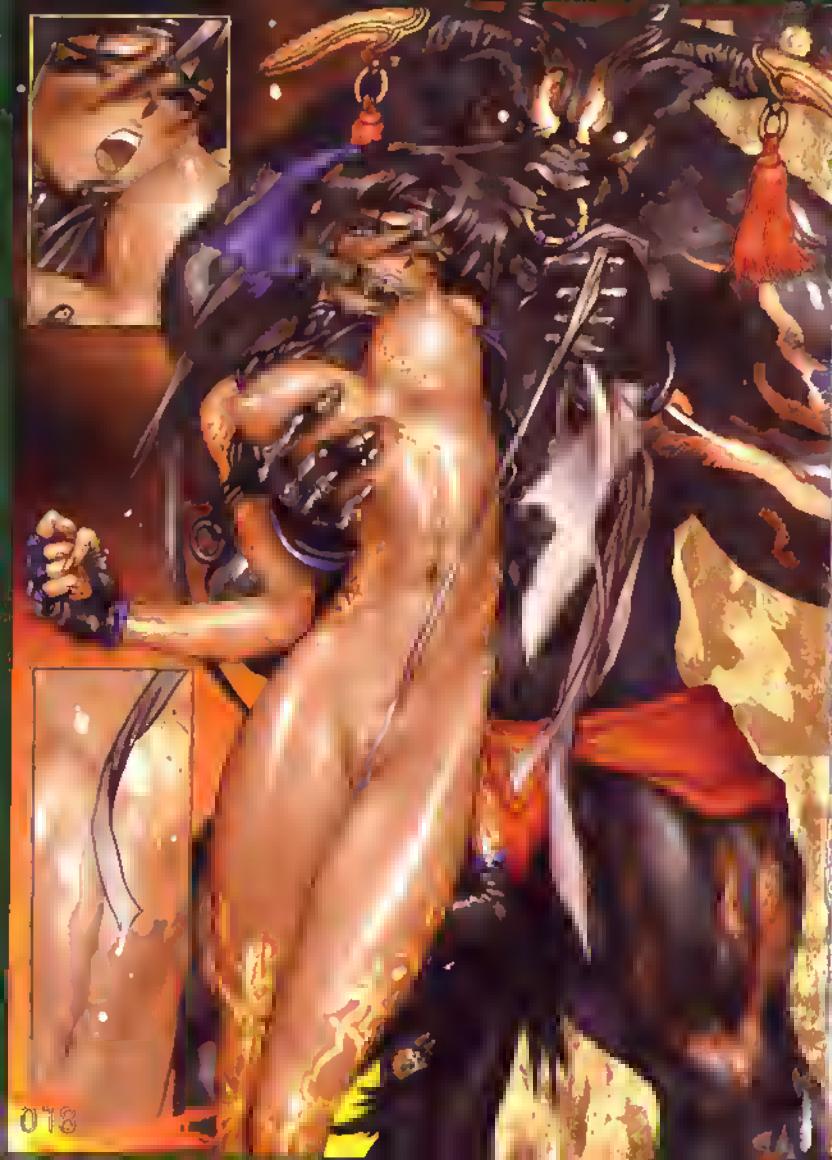
ひらう三千世界で唯一無二の神器乙女書」

「東洋在吾輩譲りの交換之技芸」を懸ることになる。とはいひ事情生みの上、だ自分は人間であると思い込んでいたる紫苑にとって、僅かな衣を手荒く剥かれ居並ぶ駄卒業は「自らに柔肌をさらす」と、

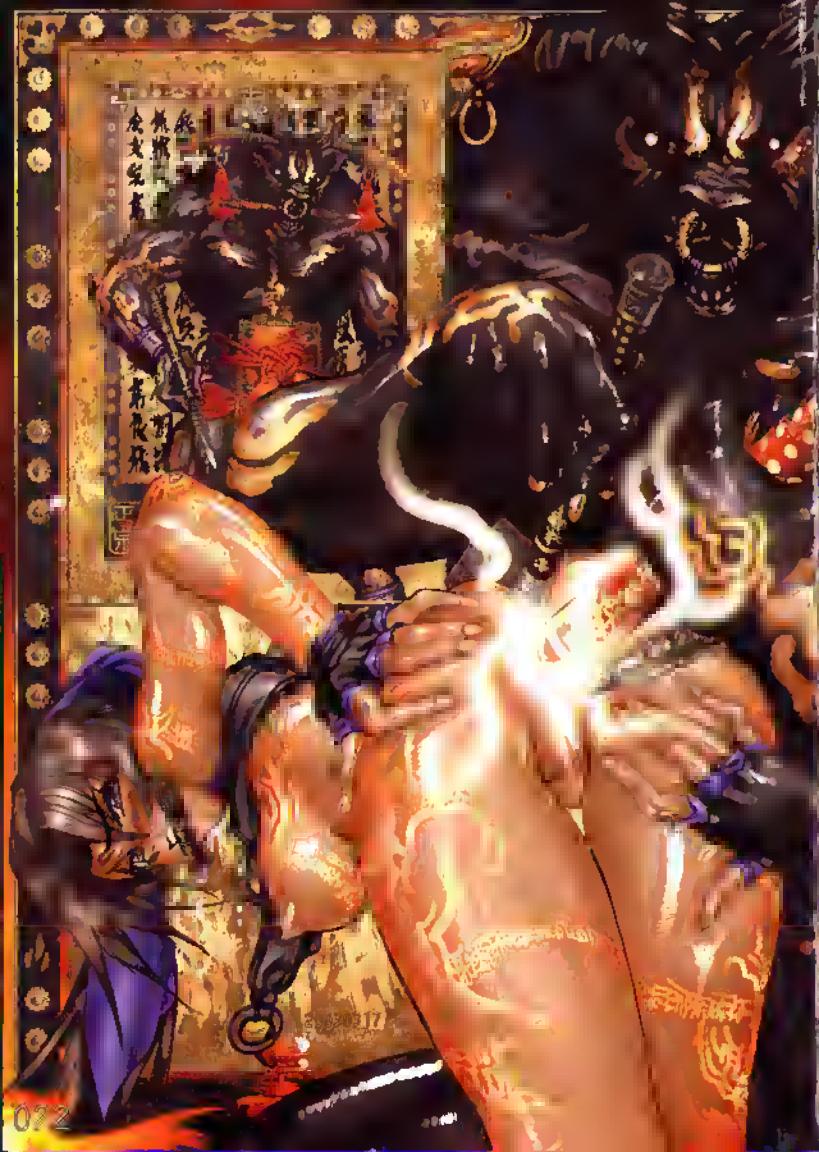
どうと難儀



裏側、貴重財物を盗むより兵力の神威を獲むべし。
各敵に火薙八不六甲、我薙火万六甲、
内敵に火薙八不六甲、武薙火万六甲を喰込みて
此百鬼退治の力を發揮せよ。

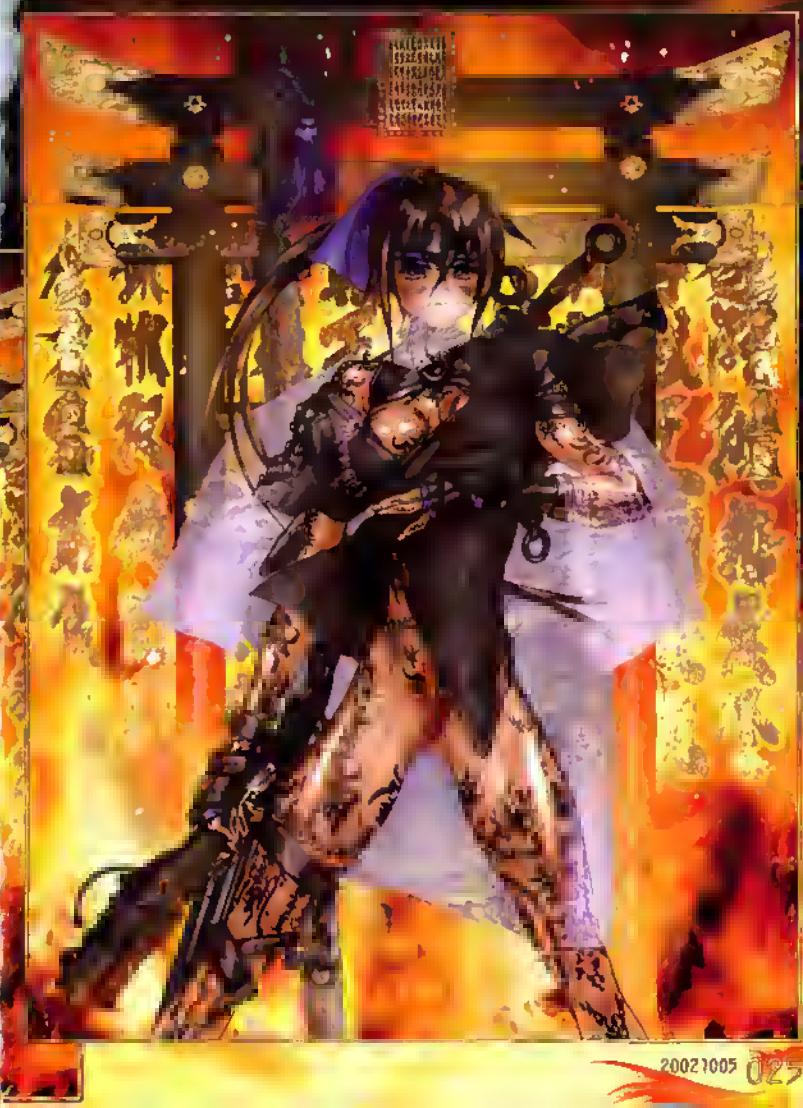






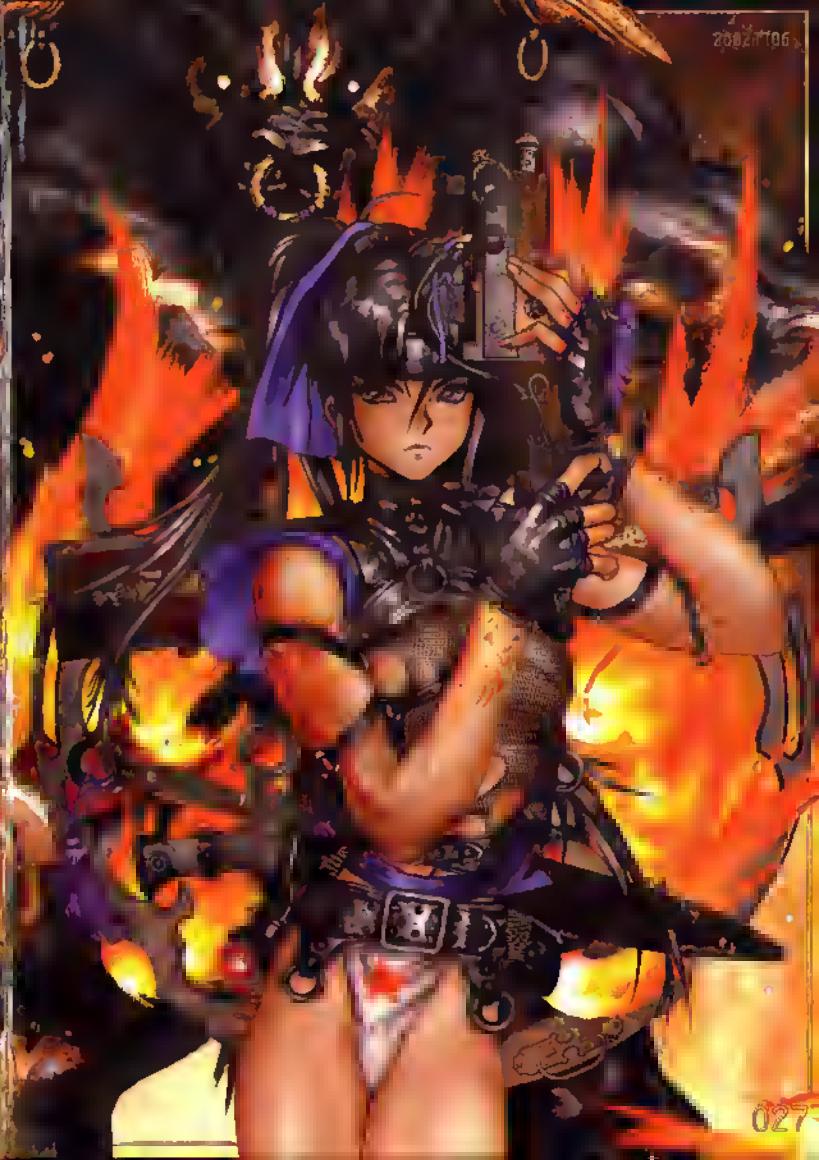


夜刀の神の依り代となつたものは自然界的捉を無視して様々な交わりを行い奇怪を生み出す。紫苑の喜悦業によって夜刀の神が黄泉に導かれた後、神通力が残った。「抜け依り代」は稀に混亂して更に悪行を生そうとする。そうした抜け依り代を、武力で威嚇させてやるのも紫苑の仕事だ。紫苑が人間界で使用していた武器なども彼女同様に神器となり、行に貴重な宝物を積む事になる。



火属性連続技も神通力により武器そのものだけでなく火薬や火薬、弾丸等まで必要に応じて無限供給されるのが、その事に慣れるまで紫苑は人間界にいた時同様のやり方で使用する事になる。他の衣装や装備も人間界で通常言うような「実体」は無く、本来は武器そのものも必要無いのだが、これが彼女のやり方なのだろう。

紫苑はこれから教卒衆の選抜隊と共に夢幽玄の世界を旅し、喜悦技芸と武術の限りを尽くし、夜刀の神に関わる一切合切を収めなければならないのだ。





貴界比良坂を過ぎると「忘却の河」又は「三途の川」がある。河に架かる「勿忘橋（わすれなばし）」は、たとえ鬼神であろうとも一方通行であり一寸たりとも戻れず、振り返る事もかなわない。特にこの鬼神勿忘橋は遼る魂も極めて少なく橋の中程には女の姿をした遙りすぐりの橋守鬼がいて、通行する者を試すのだと、獄卒頭が紫苑に告げる。



20020722 PA & VARIATION

香同

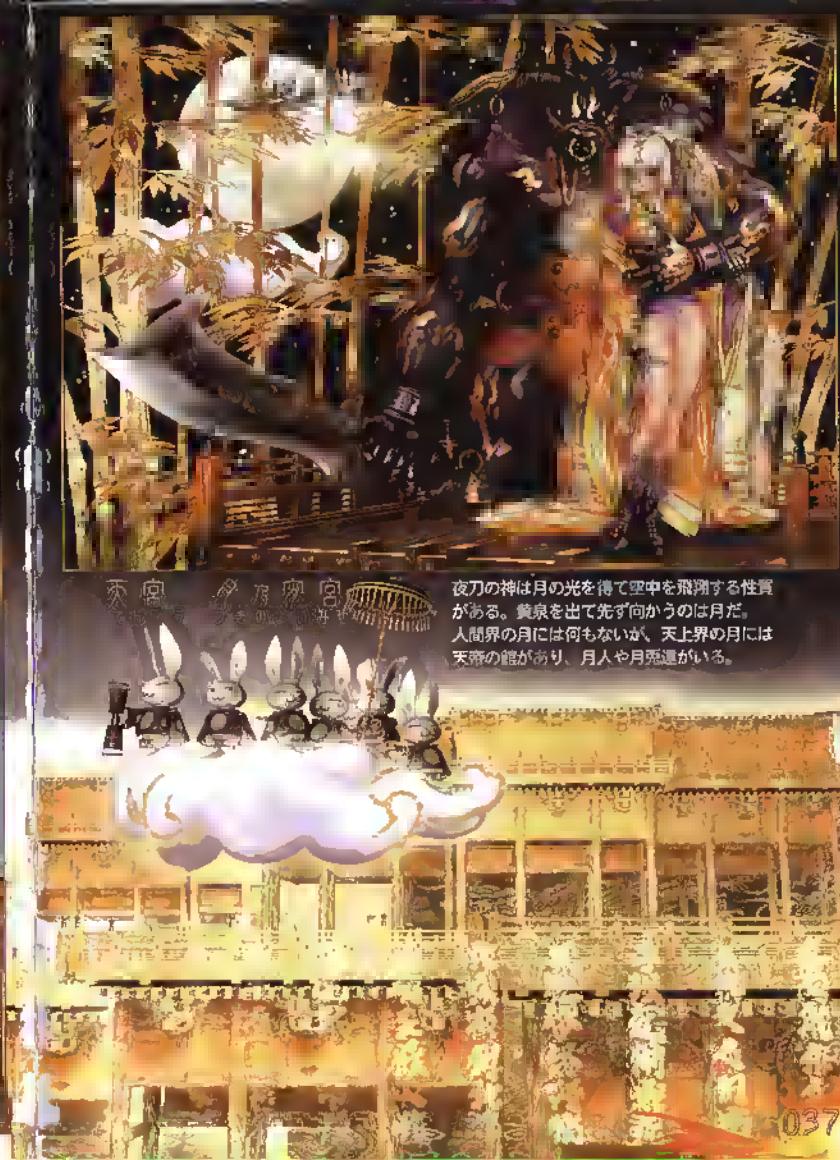
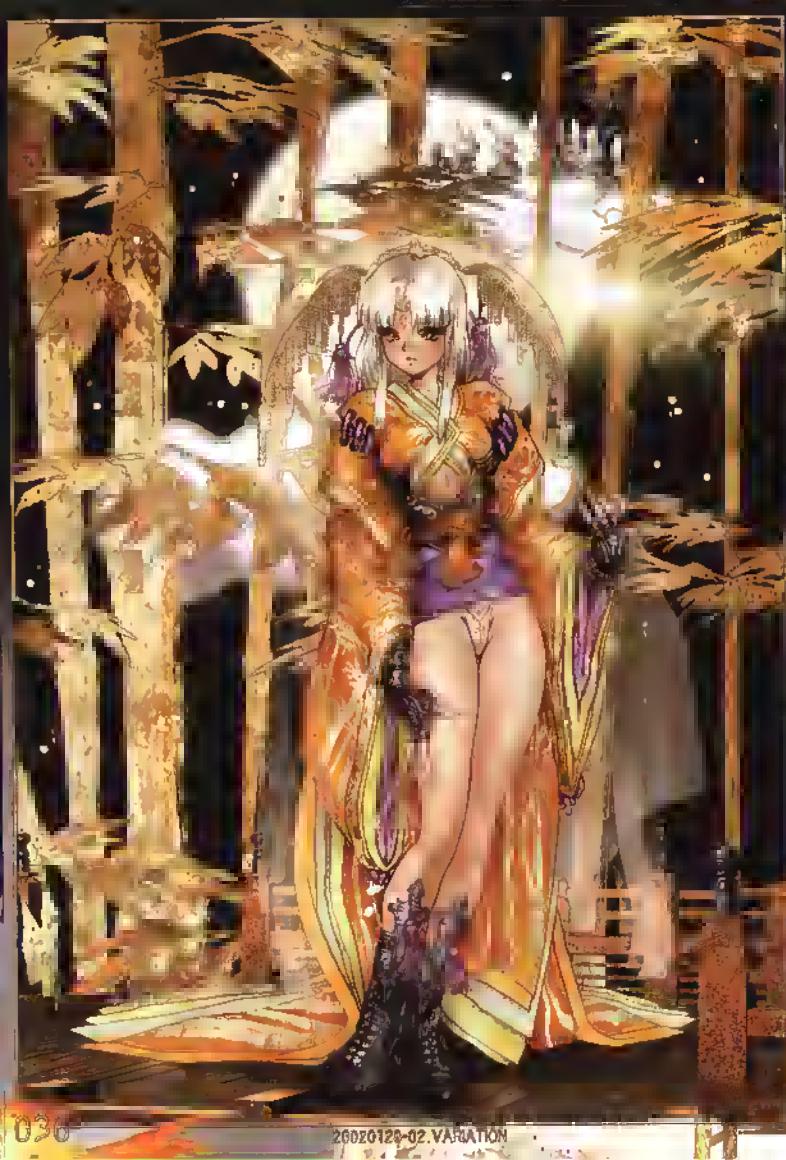
逝儀

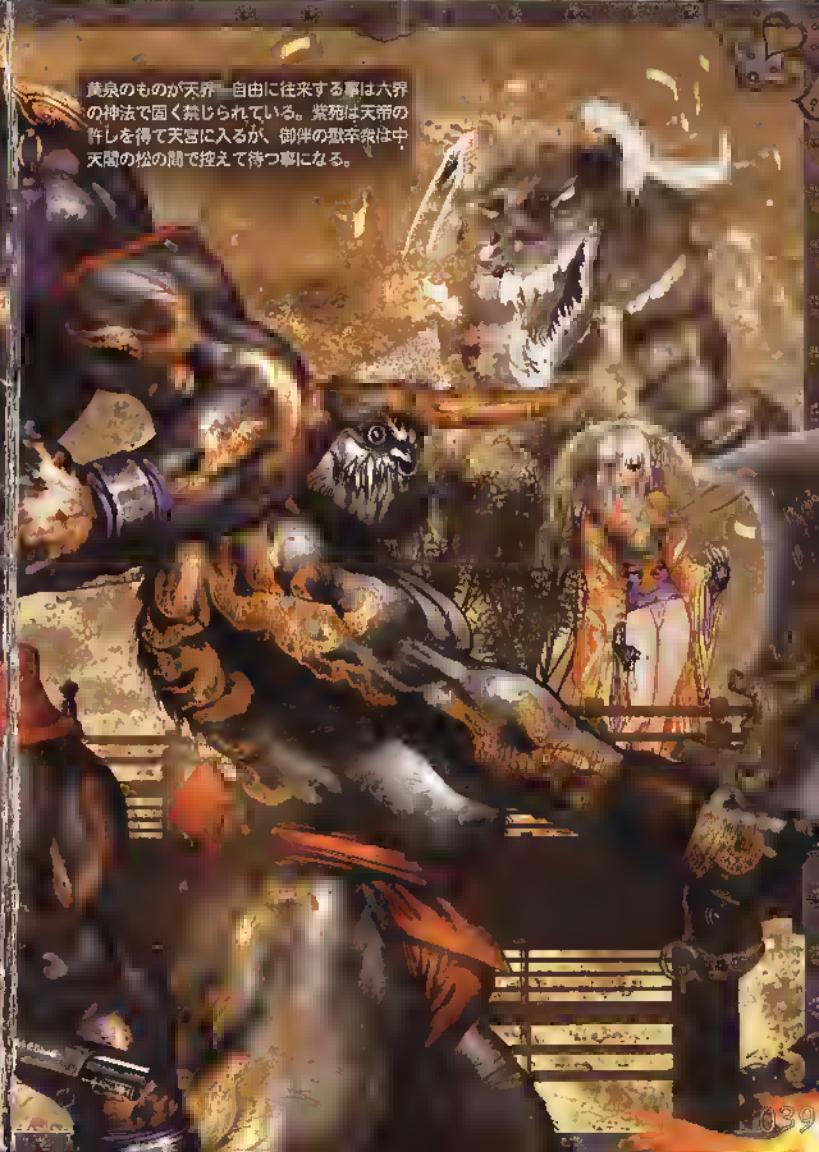


樹が自慢の虎鬼を馬代わりに早駆けするが、勿忘橋には距離というものが無いらしく、橋守鬼を振り切る事はできない。実は橋守鬼は萬葉判官殿から紫苑の能力復元度を確認するよう仰せつかっているのだが、そんな事とは露知らぬ紫苑は再び想定外の行為を強いられ若干戸惑いの気味。

橋守鬼は虎鬼の背に乗り上がり、紫苑を吟味し通行を許す。此岸まで追走してくれるが、振り返る事のできない紫苑はついに橋守原本の姿を見ないまま、川へ落水する。







黄泉のものが天界へ自由に往来する事は六界の神法で固く禁じられている。紫苑は天帝の許しを得て天宮に入るが、御伴の駕幸衆は中天閣の松の間で控えて待つ事になる。



世界を一いつ成す一いつ間に置いていくに天
娘の一人（この一件の後に輝夜（かぐや）と
呼ばれるようになる）が夜刀憑きになる。
とはいえ通常、天界での交接は息や損益を交
わす事により成立するので、肉悦を交える相
手など手近にはいない。

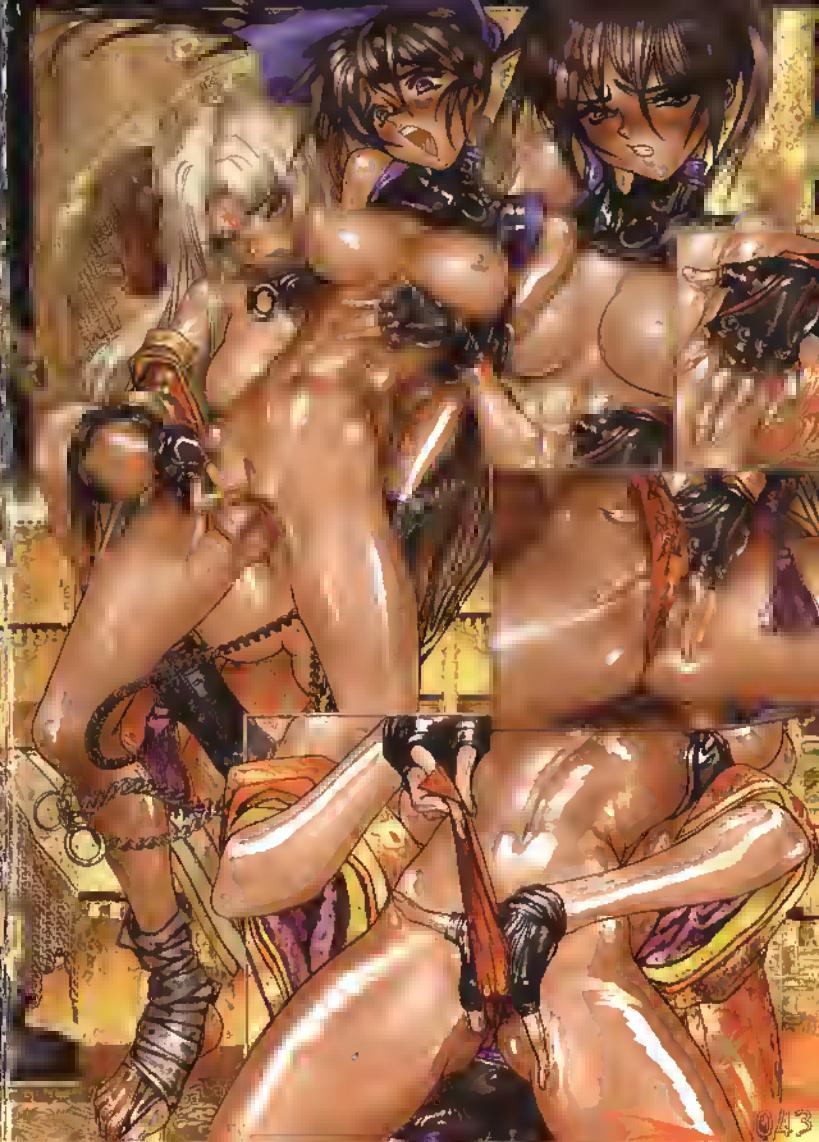
輝夜は「今宵はかに（にわかに）火照りた
るは夜刀、神上がりましなむや。我の如き心
得無き童女はいかに…ああ何としたことか」
等と呑気に宣いながら為す術も無く「月の宵
宮」の星天舞台に袴を脱ぎ捨て立ち尽くす。
都合よく天界にあるまじき肉体の持ち主「牛
頭を齧く者」が喝に慣れない様子でこそぞ
密延外縁部をうろついているのを発見、輝夜
曰く、「天帝の采配であろうか、これ幸い」と
苑に肌を擦り合わせてゆく。

紫苑は初めて（厳密には違うが）接近遭遇す
る「夜刀の神憑き」がよもや女性であるとは
思っていなかったので少々戸惑い気味。

夜刀の神は本能的に「追魔の神将」に対して
どのようなケースか歿亡の時間稼ぎとして有
る心得ているのだ。

太杵にて突き込まれし
白旗の如き最悪をば
は、標榜姐と？
標榜姐とはせて
いや、答て
共に宵宮の精魄を
それは少々術理に
大いに伸びぬぞ
居るゆえ。







2002.11.11
《火影忍者》



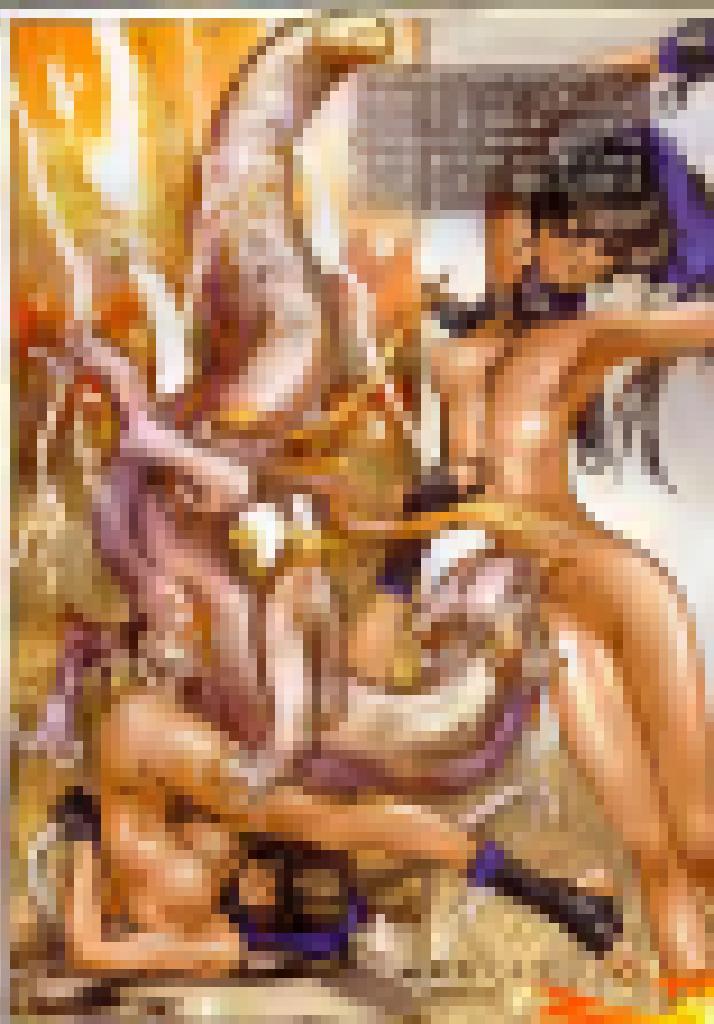
20030520
20021111 VARIATION
20030601
20030529-01
20030529-02
20030526

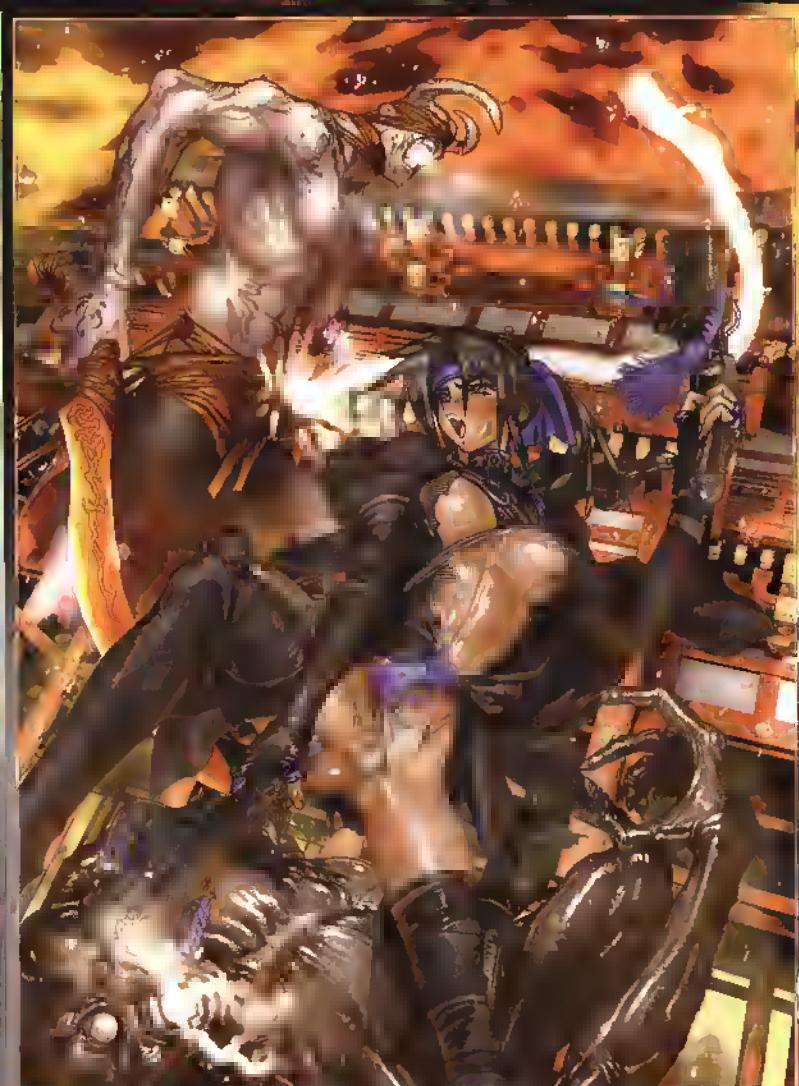
心丸美素富

相手が鍔棒を持った姫であるために勝手が異なり、夜刀の神の精魂（ウフ）が紫苑の吳門（ヨミド）をくぐらない為、天帝が「牛鬼を率いるもの（紫苑のこと）」から輝夜を引き剥がすまで追罰が遅められず、任務の最初期から他力処理事案となってしまった。

人間の価値感で見れば絶対無敵となった紫苑だが、夜刀の神級の神から見ればこのよう、付け入る隙は幾つもある。輝夜は他の事（吉田一笠「上参考」）に冥り、再び一歩前に再専念する。やがて、ヘコン（中）。



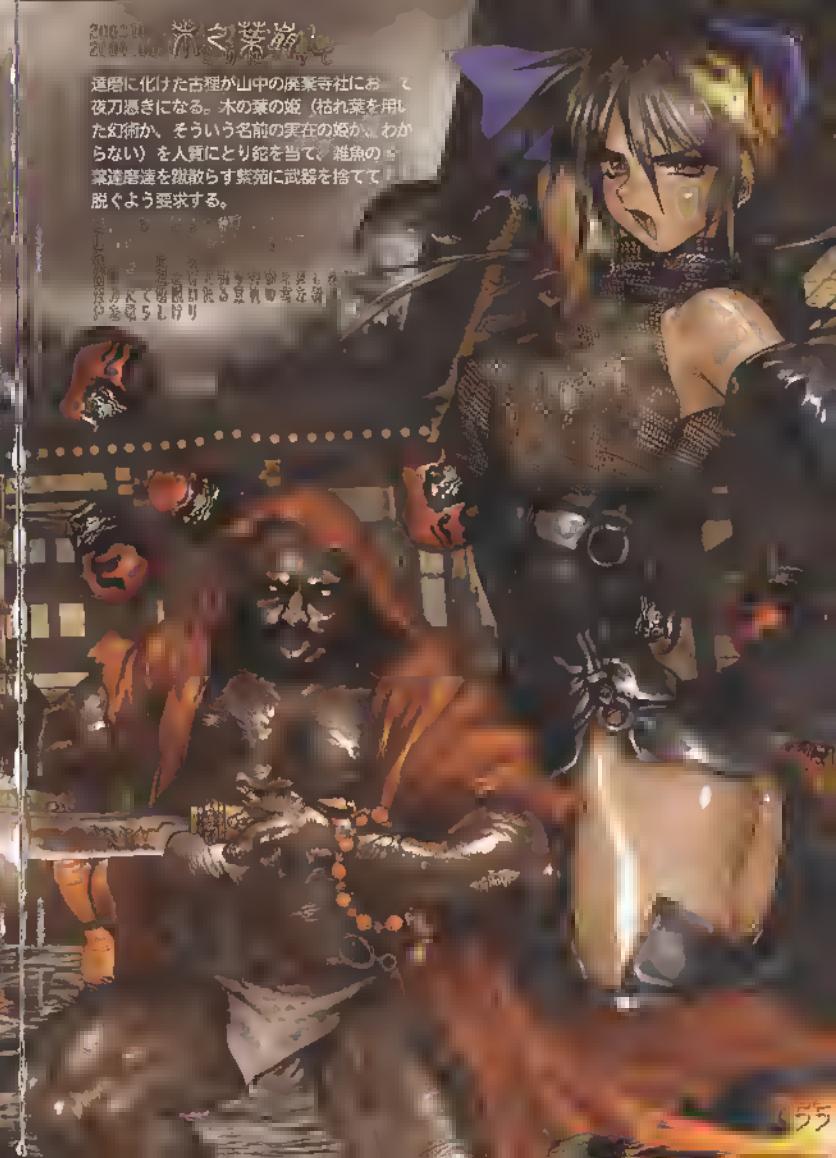
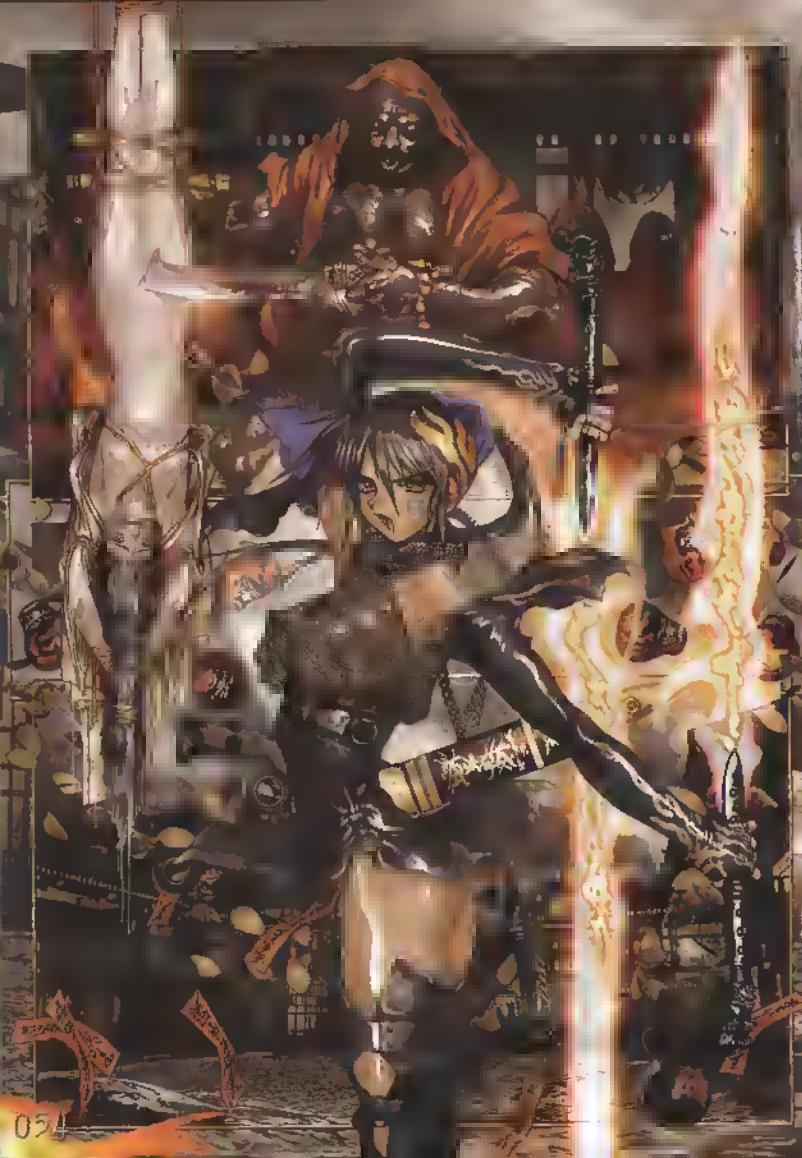


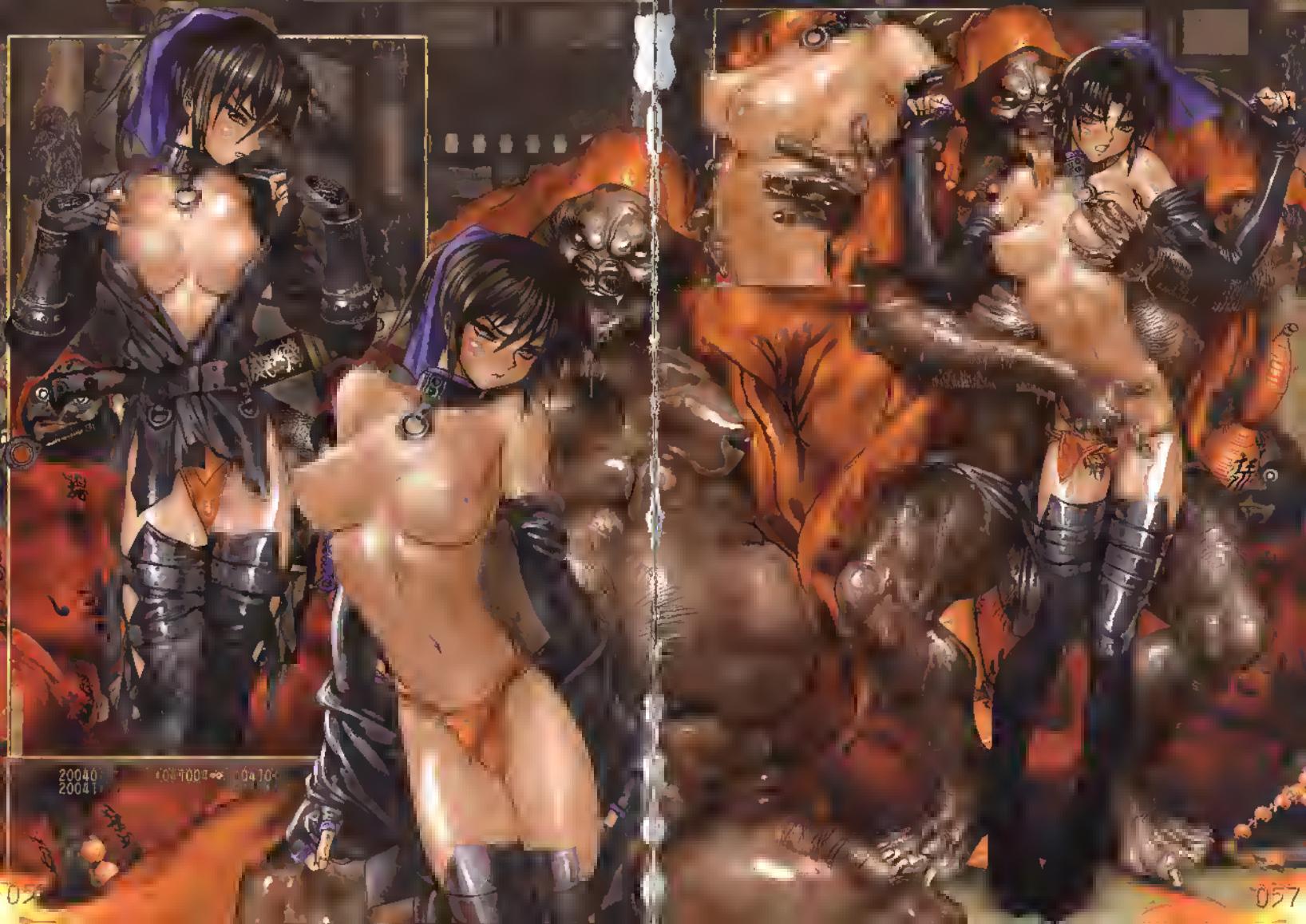


1113 YASAKANON 猿の宮

本葬前の退体仮納め＆祀り場所「猿の宮」で四門の八大守護神像に依り憑いた夜刀の神を追い詰める緊死。八大守護神像は鬼の姿に変形して、古木故か何とも言いがたい不快な軋み音を立てながら紫苑を武力で排除しようとする。幸い、動きが速いので誘って散らし、体づつ相手にするが、宮があまり広くないので確実に成仏させていくのも一苦労だ。

この夜刀の神憑きはまだ黄泉を出て間も無い童子神であったためか、紫苑の身体に擦り寄って撫で回すばかりでなかなか交わろうとしない奇妙なものであった。時にはこのような変わり神もいるものだ。紫苑の喜悦の技芸が試されるのはこのような場合であろう。





六尺囊

六尺臺く3 20031126-02
六尺臺く3 20031126-01
六尺臺く3 20031125-01

1





夜刀の神は月の光に乗って空中を飛翔する。
月光を満身に受けて舞じる狐狸妖怪の類には
依り憑き易いのであるうか。

禪寺に集くっていた紺衣の六尺観は稀なる鬼
姫に精魂を底抜かれ往生したので殘念も無く
仏縁あり転生をすることであろう。

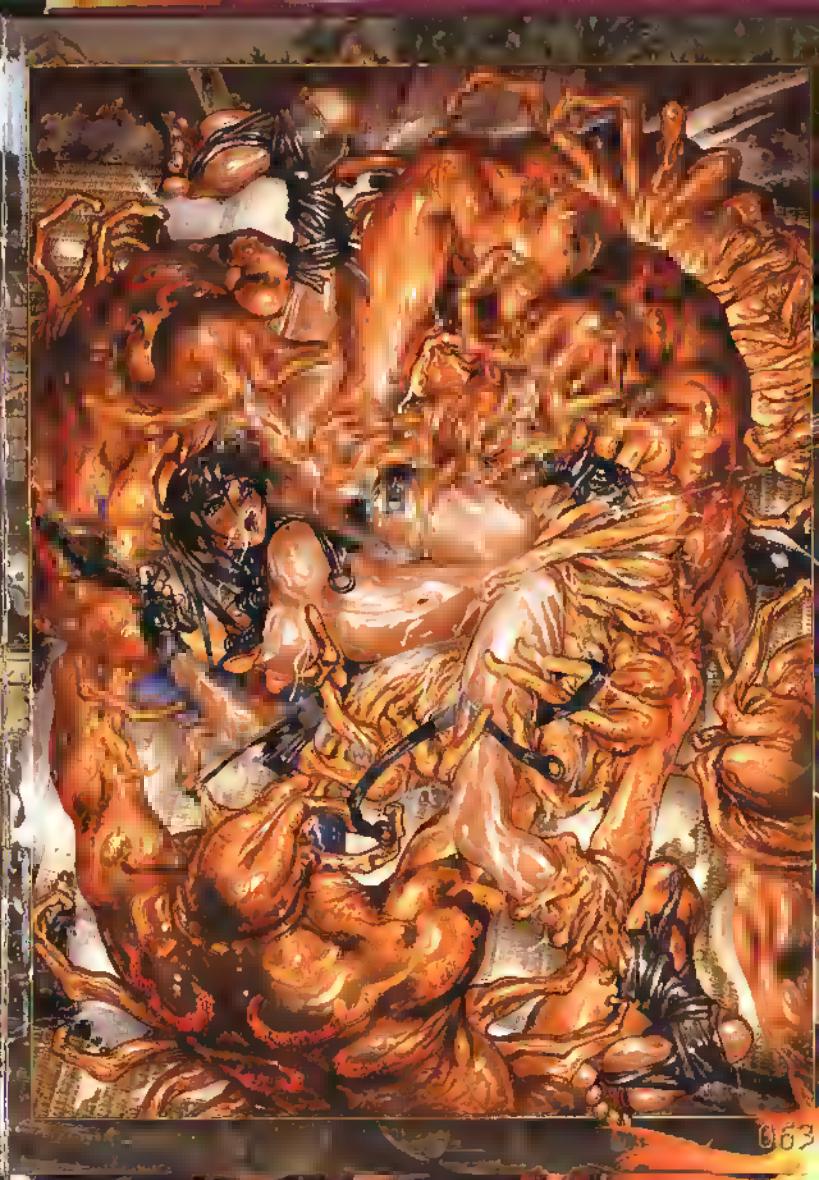


060



20031120-02

061

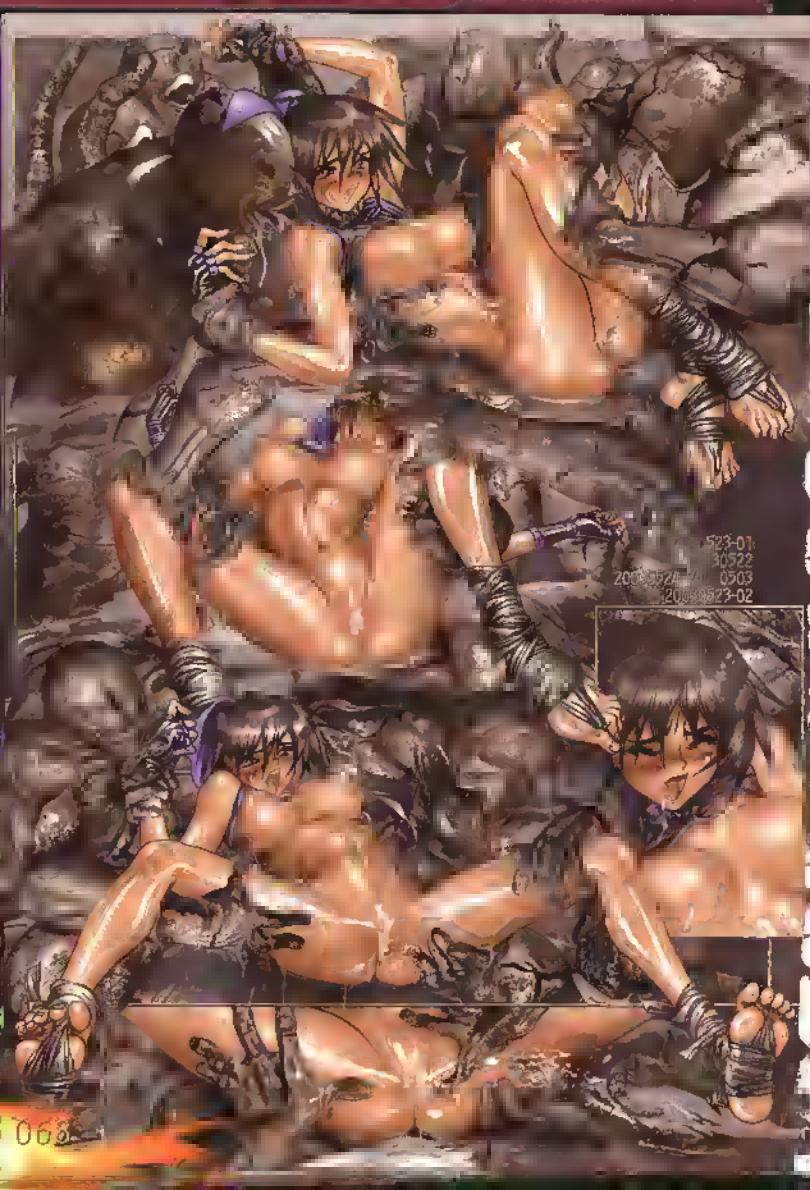




20030502→20030608
20000923→20030502
20000923→20030430
20030512 20030510

九嶺峰に言われ物語あり
有りては、これも物語あり
力の君、月のしで白い山を田
乱る景きを葉河。









2012-07-07
2012-07-07

072

073





076

20021119

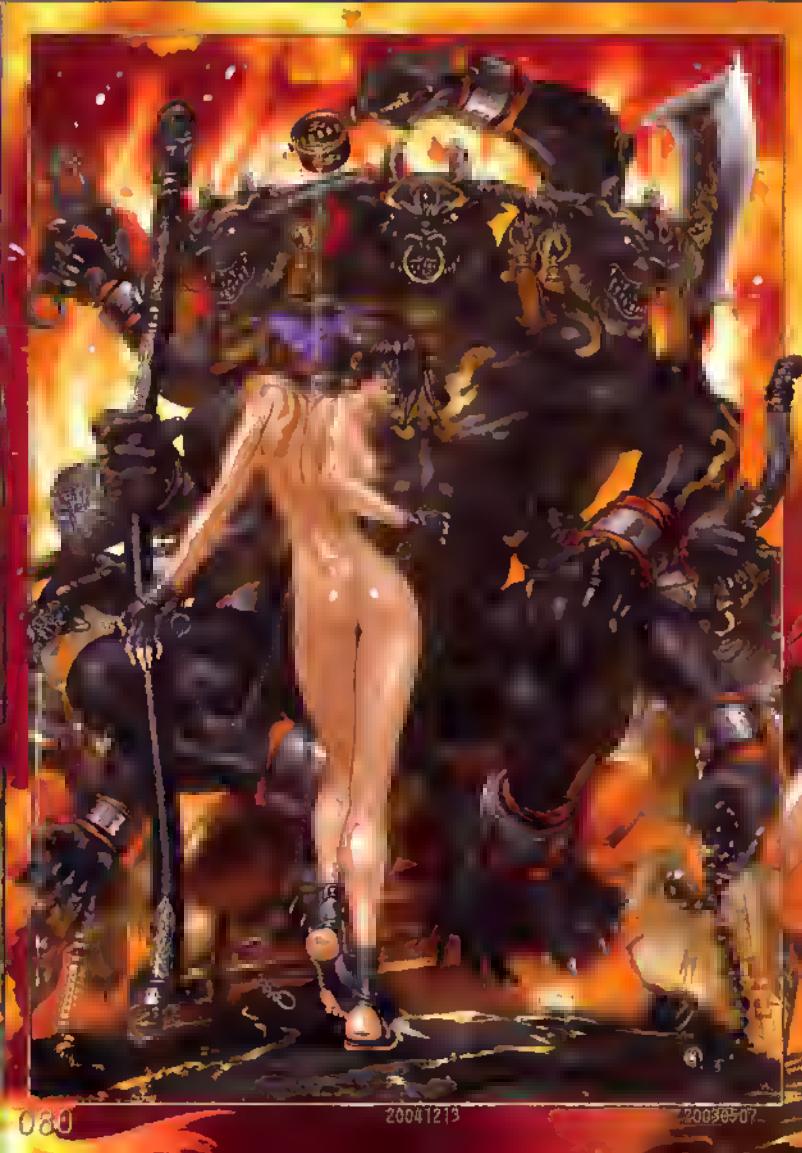
077



紫苑によって精霊底抜かれた依代は、成仏後、紫苑は貢泉の門に封神の符を貼り、長夜にわ
人間界に指を成す事がある。田泥の坊主共は、たったひとつの追難を経て、再び夜刀の神
泥田に戻り土地はやがて豊饒になるだろう。を追って旅を続けることになる。



20030511-01
20030511-02 20030512-03 20040529





1082
20030507
20030508-02
20030508-01
20030808

鬼切組旗

紫苑、鬼力高いの令高に耐辛耐苦を絶えぬ。しなる御旗
腰のござとく武り乱して御旗頭を引ひそがる。
神舞千晏ゆるりて岩峰を静かに吟咏し、氣を
よがり素を疾して鬼神の肩を震わせんとする焉。

吸い付くやうな
縫まり具合ひ
縛き絞る柳腰に
踊り乱る千變の妙技
夜刀の神追體の神器
あらば万全なり!!

い、否まだ
心存分に
感得したとは
言えぬ

夜刀の神は泣きながら天地を駆ける童子の姿
で顕現し、周囲に散る涙が夜刀憑きを引き起
こすと言われている。夜刀の神を追儺し追い
ついた際に紫苑だけがその眞の姿を見ること
ができるが、それは追儺が終わり再び忘却の
河を渡る時が来たことをも意味する。

冥景の地獄で罪人に罰を与える吾羅獄卒衆の
行に魔性の喜悦が含まれておりその苦難が夜
刀の神になると、罪人達の魂から碎け飛ん
だ悪業の元が固まつたものとも言う。決して
善惡の問題ではない。追儺も手続き上の必然
なのだ。

夜刀顕現まで
自慢の拷問棒を
差し詰め引き詰め
皆にて突き込み
精の限りを尽くし
備え極ませぬか

200901102

含み幼き様の
菊座一文字
かくも見事に
潤び狂ひたるは
さても極めて
見愛でたく
豊色きたる事よ

なれど戯れ歌の
才無きことも
希有の様なり

何と凄まじう
色好みなる姫よ
夜刀の神無き折
封じてあるは
我等では及び無き
ゆえなりしか



19981114-2605030

むう 夜刀め
早々と姫狩りを
現さば良いに…

え男君の御姿にて
精も極めたるもの
なれば
思ひも萌ゆる
潮垂り松原
(待つ體) なんてな



1920017014403



